

***** 2018年度 講演会報告 *****

日本社会と言語政策－外国人材の受け入れをめぐる－

講師：松岡 洋子(国立大学法人岩手大学 教育推進機構 教授)
文化庁国語審議会 日本語教育小委員会委員

2019年1月8日(水)10:50～12:30に11号館21教室において、岩手大学教育推進機構グローバル教育センター教授の松岡洋子氏をお招きして、「日本社会と言語政策：外国人材の受け入れをめぐる」と題した講演会が開催されました。松岡氏は、文化庁国語審議会日本語教育小委員会委員も務められており、今年4月には改正入管法が施行され外国人労働者の増加が予想される今、これに伴って起こる変化、課題、展望についてお話しされました。



講演では、予備知識のない参加者も念頭に、日本の人口や少子高齢化、日本に住む外国人口やどんな人が住んでいるかの話から始められ、政府の方針、外国人が来たらどんなメリット・デメリットがあるか、外国人受け入れに伴う言語政策、言語政策の効果・影響、向かうべき方向の選択などについて分かりやすくお話しくさしました。

最近はニュースでも日本や他国における外国人受け入れの状況についての情報を目にするが多くなりました。しかし、諸外国がどのような理由で外国人を受け入れどのような政策をとってきたのかという歴史的経緯にまで触れられていることはほぼありません。講演では、日本政府の対応策の紹介とともに、いくつかの国における政策・状況やその変遷についても説明があり、外国人材の受け入れや共生について日本社会がどのような対応をとっていくべきか考える上で非常に参考になるお話でした。(文責：小松雅彦)